

第2次木津川市生涯学習推進計画策定委員会 開催結果要旨

会議名	第2次木津川市生涯学習推進計画(第2回)策定委員会		
日時	令和5年9月29日(金) 13時30分~15時00分まで	場所	市役所 庁舎第2北別館
出席者	委員	前平委員長、高原副委員長、木村委員、生田委員、河口委員、市川委員、米田委員	
	事務局	竹本部長、吉岡次長、東村課長、藤田課長補佐、秋元係長、堀係長	
<p>1.開会 事務局より開会を宣言した。</p> <p>2.事務局挨拶 教育部長より開会にあたり次のとおり挨拶があった。</p> <p>第1回策定委員会においては、これまでの10年間の取り組みを踏まえ、多くの市民が生涯にわたり生き生きと過ごせるきっかけづくりや、情報発信等、様々な角度からご意見をいただきました。本日の会議では、ワーキング委員会での議論を踏まえた素案やアンケート集計結果について説明させていただき、本日と次回第3回目の策定委員会で中間案の取りまとめに向け、ご審議いただきたい。限られた時間ではあるが、それぞれのお立場から活発なご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>3.議事 ①第2次生涯学習推進計画の素案(中間案)について 資料Iを基に第2次計画の素案(中間案)について、事務局より説明を行った。</p> <p>(委員) 事務局で大変協議、調整されたという内容がよく表れており、ご苦勞を感じた。前回の計画から10年経ったんだなと素案を見て感じている。新しい内容について沢山盛り込まれ、特に第3章では、新たな施策が随所に加えられており、よくできていると感じた。施策の体系図についても1次の計画では、横長で分かり易かったが、今回、図形化され、より分かり易くなったのではないかと。</p> <p>今後においては、ジェンダーや人権についての問題も変わっていくと思うので、これから先の10年を見据えた場合、このような計画の内容になるのではないかと。</p> <p>(委員) 生涯学習として、基本になる計画ということで、このようにまとめていただいたことについては、評価したいと思っている。</p> <p>これとは別に今後考えていただきたいことがある。資料のアンケート結果については、まだ全て見れていないが、活動場所については、公民館で活動している方が多く、スポーツや趣味として生涯学習に関わっている方が多くいるなどアンケートを見て感じた。</p>			

私は、公民館サークルの代表として、この会議に出席させていただいているが、すごく重要な責任を感じており、我々の活動をしっかりと市民の方に広めていき、継承していかないといけないと思っている。今後は、この計画の他に社会教育とはどういうことなのか、もう少し市民に分かり易く、教えたい方や学びたい方のために具体化した冊子が必要ではないかと考えており、今後検討していただきたいと思う。

(委員)

このような基本計画については、大変まとめるのが難しいとは思いますが、よくここまで分かり易くまとめていただいたなと思っている。

7ページの上から4行目に、市内7小学校区において開設している「放課後子ども教室」とあるが、具体的にはどんなことをされているのか。

(事務局)

「放課後子ども教室」とは、放課後に子供達が地域で安全に過ごせるよう、学校が終われば一旦帰宅して、また学校に来て遊ぶ場として、そこには地域のボランティアであるコーディネーターという方が1名ないし2名おられ、その方を中心に他のボランティアの方と一緒に地域の方と子供達がいろんな遊びを通じて交流するという事業である。

(委員)

学童保育とは別の事業か。

(事務局)

別の事業である。学校によって、開催日や回数、ボランティアの人数も違っている。

(委員)

一旦自宅に帰ってから再度学校に行くということで、安全面は大丈夫なのか。

(事務局)

帰宅してから来てもらうことになるので、安全面については保護者の方の責任となっている。

(委員)

小学校に勤務していた時に同じような活動をしていたが、帰宅せず体育館等で活動していた。一旦帰らせるとなると、交通の問題等、その辺の心配はないのか。

(事務局)

一旦下校してからの参加となり、確かに安全性の問題もあるので、その点については、また検討させていただく。

(委員)

8ページの図を見て感じたことは、1995年の時は65歳以上の高齢者の比率が7人に1人であったが、今年度は4人に1人、2053年になると3人に1人が高齢者ということで、市民の3分の1が高齢者という予測になっている。このことから考えると、計画の中で特に高齢者に重点を置いたような位置付けが大事になってくると思う。14ページの⑪に高齢者の施策があるが、もっと高齢者に特化した活動を行い木津川市が京都府、日本で一番、健康寿命が高い市だということを目指していくようなインパクトがある内容を盛り込めれば良いかなと思っている。

(事務局)

2053年には市民の3人に1人が高齢者という推計が出ているが、本計画においては、基本的には全世代を対象とした計画であり、高齢者に特化するとなると、本課だけではなく、例えば介護を担当している高齢介護課等も関係してくるため、そちらの方とも検討していく必要がある

と考える。

(委員長)

高齢者が増えていくということは、木津川市だけではなく全国的な傾向であるが、木津川市として、高齢者を含めた生涯学習のコミュニティ社会をどのように作っていくかということを中心に、出していくような計画ができれば良いなと思っている。

今回、この素案は確定ということになるのか。若干の文言修正が可能なら、皆さんで考えていただければ良いのではないかと思うが、いかがか。

(事務局)

この後、11月に第3回目の策定委員会を開催させていただき予定であり、今の時点では文言修正やご指摘いただいた内容の修正は可能である。

(委員)

7ページの下段に市民運動会や歴史めぐりマラソン、市民スポーツ大会・教室など各種スポーツイベントを開催することによりスポーツに親しみ、市民が交流できる機会を作ってきたとあるように、このようにやってきたが、前回もお話させていただいたように、集まりが悪く困っている。先般9月10日に市民運動会を開催した際には、暑い中、約600人の方に参加していただいた。近年の気候変動により熱中症が増えており、こんな暑い時期になぜ開催するのか、そういう批判も受けている。

我々の課題としては、スポーツを通じて集まっていただけ場を作っていくということが課題であり、とにかくなかなか集まっていけない。どうしたら集まっていたのかを考えてはいるが、スポーツをする方が増えず、若い方が集まってこない。スポーツ協会も年々高齢化しており、80歳前後の方が5分の1おられ、頑張っている。会員が増えない理由としては、広報的なことが悪いのか、情報提供が悪いのか、何が原因なのかが分からない。今回、計画を作るに際して、そういったことも考えていただければありがたい。

(委員長)

この計画の中に、そのようなことも反映して欲しいという提案だと思うが、若い方が参加されないのか、会員として在籍しつつも高齢者の方がスポーツから離れられていくのか、他に違った要因があるのか、どのようにお考えか。

(委員)

高齢者の方の参加は多く、イベントの際でもスタッフとして非常に協力的である。それに比べ若い方の参加が少ない。

(事務局)

生涯学習というものに立ち戻って考えると、生涯スポーツも生涯学習であり、社会教育という学習面も生涯学習ということで、それらを通じて、自分達がしたいことができたり、その中で健康であったりというような環境を作っていくのが生涯学習の大事なところで、例えばイベントやサークルに参加されるのはもちろん、そこで自分がやりたいことをやり、行きたいところに行くということも大事ではあるが、角度を変えると、見えないところでも、例えば自分の健康のために散歩をするということも一つの生涯学習であり、イベントやサークルの参加人数だけにとらわれるものではないと思う。もちろんそのようなところに出ることがきっかけにもなり、そこであの方もあんなことをして頑張っているのだから、自分もやってみようとか、新しいスポーツをしたり体を動かすきっかけになるということも大事であると思うが、そのようなことも含めた生涯学習、生涯をいきい

きと過ごせるようなことのきっかけ作りになる基本的な計画が、この生涯学習計画であると思っている。

若い世代の方が、なかなか時間が取れないということで、お仕事を一区切りつけられた方が、そういう場に出て行かれることが目につきやすいのかなと思うが、だからそれで良いのではなく、若い方も参加していただけるよう、例えば時間や曜日等、きっかけを作っていくようなことをこちらとしては考えていかなければいけない。行政側とサークルの方々と力と考え方を合わせて、そのきっかけになるような場所とか、それぞれ皆さんこういう意識を持っていただけるようなところを作っていくのも大事なのではないかと思う。

(委員長)

イベントだけではなく、市民全体のスポーツに対する意識も含めて生涯学習を推進していくということが、行政の計画のモットーだということで、私も納得した。

(委員)

この計画については、皆さんとひとつになってやっていかなければいけないと考えている。ただ、残念ながら講座等を受講して、その後、サークル活動へ移っているということが今の木津川市では弱いと感じている。いろいろ方法はあると思うが、基本的には、そこできっかけを作り、またどこかでやっていくということが生涯学習であると思う。核となっただけの方が、その中でスタッフを育て、またやっていくという方法が、どんどん広がっていくと思うので、講座を受けて、その受けた方がサークルを作り、そしてそれを皆さんに返していくという方法を何か入れていただいたらどうかと思う。

今、いろんな教室が公共とは別に行われているが、そのあたりの把握は、されているのか。

(事務局)

民間の文化センターや地域の大学等でもやっておられ、現状そこまで把握できていない。

(委員)

ワーキング委員会では沢山の意見が出て、どうなるかと思ったが、うまくまとめていただき、ご苦労いただいたと思う。なかなか人が集まらないという意見があったが、スポーツ推進委員会で事業をしても参加者が集まらないというのが現状である。今、陸上教室を行っており、28名の登録があるが、多い時には50、60名の参加があった。

私はソフトボールの監督をしているが、試合の時でもひとが集まらず、人数ギリギリで試合をしたり、他のチームもそんなことで棄権が多い。それだけ若い方が、いろんなことに参加しないという現状で、20歳前後の時はよく来ていたが、結婚すると来なくなり、子供が大きくなって40ぐらいになるとまた来るという。いろんな事業についてもそういったことがあるのかなと思う。ただ、それをこの文章の中に、どのように入れるのかは難しいのではないかと思う。

計画を読んだ感想だが、4ページのSDGsについて、計画に入れるのは必須ということで無理矢理入れてここだけ難しい印象を受けた。おそらく市民の方には分かりにくいと思うが、入れざるを得ないという事情があるのか。

次に、高等教育機関との連携とあるが、木津川市には高等学校が2校あり、大学はないが、近くに同志社大学や奈良大学がある。そういった高校生や大学生を活用しながら事業をやると、それを元に木津川市に住んでいる子供達、高校生、大学生が体験をすれば興味を持って木津川市の事業にも参加するというケースも出てくると思うので高校生等との連携をするような事業ができないかと思っている。先程申し上げた陸上教室では、木津中学校の生徒に手伝っていた

だき、また10月に行う障害者のスポーツ大会では、木津高校の生徒が手伝いに来てくれる。そのように、もっと何か活用できないかと考えている。

公民館においては、公民館まつりやサークルの発表会等をされているが、この中に「生涯学習フェスティバル」という文言が出てこない。そういった活動は全部生涯学習フェスティバルの中の一環ではないかなと思うが、その文言を入れなくてもいいのか。

全体の文言については、また修正されると思うが、前から指摘している箇所がまだ変わっていないところがある。同じことが漢字であったり、ひらがなであったり、中点があったり、なかったりしているので、最終出す時にはきちっと見ていただいて統一してもらう必要がある。基本理念についても「こころを結ぶ」のままになっているので、「結び」に修正した方が良いのではないのか。  
(事務局)

SDGsについては、いろいろな行政の諸計画において、SDGsを基に目指すべき方向等を掲げることになってきた。他の自治体の生涯学習推進計画を確認すると、どこもこのように目標を位置づけた計画の内容とされている。このSDGsの記載について課内で検討したが、例えば、第3章の基本目標の中で、それぞれの項目に置いたらどうかとの案もがあったが、それをするとなると169のターゲットがあり、内容が輻輳したり、本来挙げるべきものが挙げられなかったりということにもなりかねないため、今回はこのような形で第1章の中でSDGs全体を通して、真ん中の「4 質の高い教育をみんなに」というところに付随するよう残りのゴールを置いて、全てが関係しているような形にさせていただいたというところで、ご理解いただきたい。

次に高等教育機関との連携ということで、近隣には同志社大学をはじめ南陽高校や木津高校があり、計画の中では第3章の16ページ、(2)の②に市民の多様化するニーズに応えるため、大学などの高等教育機関、関西文化学術研究都市にある研究所等との積極的な連携を図りますということで、具体的な内容にはなっていないが、こういう形で連携していくということで、例えばワークショップ等を開催したり、人材を発掘したりして、若い方が市の事業に関わってもらえるような場面作りが必要だと考えており、今後、個々の事業展開の中でいろいろ見ていきたいと考えている。

そして、生涯学習フェスティバルという文言がないということであるが、具体的な事業について、文言を書いていないが、基本目標3のところ、18ページの(3)学んだ成果を発表できる場の提供や成果を活かせる機会を積極的に創出するというところで、下の四角の中で委員のご意見とは違うかもしれないが、小さな発表会や体験講座の定期的な開催ということで、みんなが集って発表できるような場というところでは、そういうことも見込んだ中で、目指すべき方向、基本目標の中で具体的施策として、挙げさせていただいている。この小さな発表会という表現がいいのかどうかということは、意見をいただいた中で本課として検討したいと思っている。

最後に文言統一については、統一できていない部分があるので、もう一度しっかり確認させていただく。

(委員長)

今日の会議では、この内容を一言一句決めるということではなく、全体としてはこういう方向で進めましょうということで、皆さんの合意を得ましたら、また次回に向けて事務局の方で考えていただけたらと思いますし、私達も検討していくということでよろしいか。では、この素案に関しては、お認めいただいたということで、ただし修正は今後も続けていくということで進めていきたい。

## ② アンケート集計結果について

資料2を基にアンケート集計結果について、説明を行った。

### (委員)

アンケート結果を拝見して、とても良い結果が出ているなど思った。自由記述については、かなり沢山の方からご意見があり、そうなんだなと思わされることが多くあった。高齢者の方の話が多いが、自由意見の36では、高齢者向けばかりではなく30~40代向けの企画もお願いしますという意見もあり、そのような意見もあるんだなと思ったりした。

だんだん高齢になると、参加するための交通手段が問題で、公共交通機関を利用しないと行けないということもあり、私が住んでいる地区でも高齢者の方で、行きたいが手段がないという方が多くおられる。その他、32では1人1日1時間ボランティアをするのはどうかということで、体を動かすことでボランティアをすることによって木津川市が綺麗になる、そういう小さい仕事だが、そのようなこともしたらどうかという意見もあって良いなど思った。

私の娘が大阪に行った際に木津川市の子育て支援については、とても丁寧だと言われていた。また、奈良市に住んでいる方からは、木津川市は結構頑張っていると思いますよと言っておられた。

今回、このようにアンケートを行って、自由記述のご意見を拝見して、とても参考になった。

### (委員長)

自由記述欄というのは、このアンケートにおいて意見の宝庫で、ここからいろんな視点が出てくるので、是非これからも活用していただきたいと思う。

### (委員)

この結果を見ると、高齢者と仕事を持っておられる中間層、子育てをされている層ということで、うまく分析されていると思った。全体的な感想としては、若い方の今の感覚と高齢者という世代を考えると、我々が生きてきた40代の時の社会状況と今の高齢になった私の社会状況が随分違うと感じている。今の社会状況が我々本当に分かっているのかと自分自身思っている。基本計画もそうだが、具体的に何かをやるということもそうであるが、今の社会状況、高齢者も若い方も、どこか共通点があるのではないかと思い、私はその共通点を探し、それを発想転換していく必要があるのではないかとアンケートを見て思ったので、もう少しゆっくり分析しながら、この点について考えてみたいと思っている。

私は、バウンドテニスというニュースポーツのサークルを行っており、今日も朝から活動してきた。75歳の方で今からバウンドテニスを始めたいという方が、ふたり体験に来られ、楽しいと言って帰られた。これまで30年間バウンドテニスをやっているが、やっていて良かったなど実感した。細々とやっても決して灯は消したらダメだと感じた。

アンケートについては、また分析して、なにかあれば提案したいと思う。

### (委員長)

私も似たようなことを考えており、今の社会状況というのは、数十年前とは違う。例えば、その当時の小説を読んでみると、40代、50代で老人という言葉が頻繁に出てくる。我々は、私も含めて、そういう意識は一切持っていない。その時代時代で、年齢の役割や意識が違う訳であり、その当時40代、50代は高齢者だったのかなと思うが、今50代で高齢者というと叱られそうですし、私自身も高齢者とは思っていませんので、そういう意味でカテゴリーを年齢毎に区切って

いくことの必要な場合はもちろんあるが、それだけで見ていってはいけないのではないかと  
思っている。

(委員)

ご意見というのは、非常に貴重だと思う。その中でアンケート回答者101番の方、何かをして  
もらう前に何かをしてあげたいと思っている市民も多いと思うということで、これは基本計画17  
ページの4のリーダーとなる人材の発掘というところで、その人材の掘り起こしに対応するの  
ではないのかと思う。そういう方が沢山おられるので、そのような掘り起こしをしていただきたい  
と思う。次に回答者43番の方は、生涯学習という言葉がピンときていません。とてもかたいイメ  
ージで身近に感じられないとあり、一方で回答者151番の方は、生涯100歳の時代に住民1人  
ひとりに生涯学習の必要性を意識づける強力なアピールを根気よく継続していくことが大切だ  
ということで、80歳以上の方のご意見である。こういう具体性というか市民にもっと強力なアピ  
ールをしていけば、43番のような方が減っていくのではないかと思う。

(委員長)

何か必要とされるということは、とても学習教育にとって大事なことだと思う。自分自身が他者  
に対して関わっていくということは、学習教育にとっても意味があることだと思うので、そのよう  
なことも含めて報告書に書き込みができれば良いのではないかと思う。

(委員)

アンケートの集計を年齢別にさせていただいており、それぞれの特徴的な項目が何点もあり、  
非常に分かり易いと思った。ただ、60歳以上を一括りにしているが、最近の60歳以上の方を果  
たして一括りにできるものかという気がする。年々、年齢層というのは変わってきており、定年6  
5歳まで延びているので60歳代というと、まだまだ仕事をされている方も多く、なかなか時間が  
取れないという方もおられるので、このような括りにしていいものかという気がする。

最後の自由意見については、細かく分けていて年齢による意見の違いも分かるので、今後検  
討される時の参考にしていただきたいと思う。

(事務局)

アンケート結果のクロス集計については、大きく世代を3区分に分けているが、事務局では10  
歳区分でデータを持っている。今回、資料を作成するにあたり、10歳区分でいくと量が多くなる  
ということで、今回は、このように若い世代、中高年世代、60歳以上の3区分で作成させていた  
だいた。

(委員)

アンケートの集計結果については、今後、ホームページにも掲載されると思うが、これが載る  
のか。

(事務局)

このまま掲載するのではなく、ご意見をお聞きした上で、もう少し見やすく、より分かり易くして  
掲載したいと考えている。

4. その他

次回の策定委員会(第3回)の日程について、説明を行った。  
次回は、11月13日(月)13:30~ 行うこととなった。

5. 閉会

事務局より閉会を宣言した。

以上

その他特記事項

傍聴者0人、報道関係者0人